

『DBシンクロ組版』と意思決定支援ツールが受注の決め手!



DTP 部 次長
照屋 薫 氏

意思(誌面) 決定支援システムへの拡張性を求めて導入を決意

「Orbit Magic との出会いがなければ、この仕事を受注できなかったと思います。」と話すのは DTP 部 次長の照屋氏。

生活共同組合コープおきなわの生協カタログ「あっぷる」を受注するために、さまざまな面からメリットをコープおきなわ側に提案する必要がありました。制作面では手作業による DTP に代わって、データベースと連動する組版システムを活用することで

- ①クライアントであるコープおきなわ側でページレイアウト編集が行えること
- ②売上集計データと連携した意思決定支援への発展性があること

を提案しようと考えたそうです。「特に、意思(誌面)決定支援については、売上集計に基づき、ページのここに「醤油」の小組をレイアウトすれば過去のデータからこれぐらいの売上げが期待できる、といった売上予測を行えるように、ステップアップしていけるようなシステムを提案できないかと考えて、いろいろなソフトウェアメーカーに相談しました。」と照屋氏。しかし、条件を満たす制作システムはなかなか見つからなかったそうです。こうした中で浮かび上がってきたのが、富士ファイル

沖縄県において印刷をはじめとして販売促進企画の立案、広告・宣伝まで幅広く手がけている株式会社 近代美術。

同社は、コープおきなわの生協カタログ「あっぷる」の制作に、富士ファイルグローバルグラフィックシステムズの DB シンクロ自動組版システム『Orbit Magic』を導入されました。

同社、DTP 部 次長の照屋 薫 氏に現在のシステムの活用状況と今後の展望についてお話を伺いました。

ムグローバルグラフィックシステムズの DB シンクロ組版システム『Orbit Magic』でした。

「『Orbit Magic』を導入したことがすべてではありませんが、これらも含めさまざまな点においてコープおきなわにメリットを提案することができたため、生協カタログの制作を受注することができました。」と照屋氏は語りました。

自動組版システムでありながらフリーレイアウトに対応可能

「自動組版システムはレイアウトがテンプレートに制限されるので、手作業の DTP では対応できていたクライアントのレイアウトに対するデザイン要望に応えにくいのではと思っていました。」と照屋氏は当時を振り返る。

『Orbit Magic』もテンプレートを使用して自動組版を行います。組版結果は InDesign ファイルで出力されます。そのため、レイアウトに対する要望にも、手作業による DTP と同様に対応できます。「どんなにレイアウトの赤字修正が入っても DB との連携が切れずに対応できたことは『Orbit Magic』の偉さだと思う。」と照屋氏。

InDesign 上で売価や数量などの商品情報を変更すれば、変更した内容がデータ



Orbit Magic で組版された生協カタログ

ベースに反映されます。このようにデータベース連動の組版システムでありながら、クライアントの要求するフリーレイアウトに対応できるのが『Orbit Magic』の大きな特長です。

直感的で分かりやすい Flash によるページレイアウト編集機能

「Flash を使うことで、小組の配置状況が一目で分かり、簡単に変更できる点は、すぐにカタログが作れそうで、カッコイイし、素晴らしいですね。」と照屋氏。

生協カタログの制作では、このページレ

設 立	1967 年
資 本 金	4501 万円
本 社	〒901-1111 沖縄県南風原町字兼城 206 近代美術本社ビル TEL : (098) 889-4113 URL : http://www.p-kindai.co.jp/
従業員数	174 名
事業内容	商業印刷全般、各種印刷物の企画制作、販売促進企画の立案・企画、実施、広告代理業全般

アウト編集部分をコープおきなわ側でも利用して小組の配置指示をしてもらっています。実際に使用して高い評価をいただけたのか、コープおきなわの他のカタログでも『Orbit Magic』を活用したいという要望が先方から出ています。これから『Orbit Magic』の活躍の機会はますます広がっていきそうです。

データベース連動システムだからできる小組流用・データ書き出し

従来型のDTP作業では、同一商品であっても小組は毎回作り直していました。

「『Orbit Magic』ならば、制作した小組はデータベースに登録されているため、データベースを検索して、小組を流用できる。」と照屋氏。

また、クライアントへ校正を依頼する際、DTPデータの出力紙と確認用にDTPデータ上で使われている商品情報（商品

名、数量、価格など）のテキストデータを提供する必要がありますが、従来の作業ではDTPデータからひとつひとつコピー＆ペーストする必要がありました。データベースとDTPデータ上の情報がシンクロしている『Orbit Magic』の場合、商品情報はデータベースから取り出せるので、校正に関する負担を大幅に軽減できました。

紙媒体からWEBへ、更なる進化を目指して

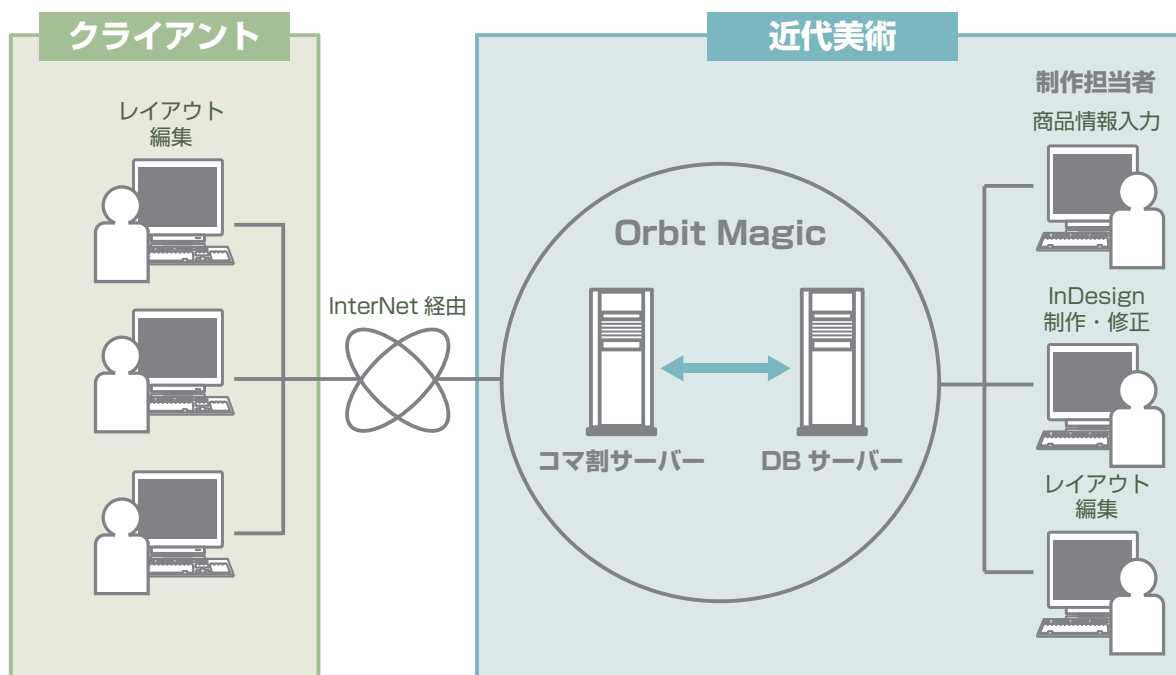
「流通業のクライアントからよく話があるのは、顧客の年齢層別や離島などの居住地別といった形でターゲットを絞り込んで、内容の異なる商品情報を提供できないかという相談です。ターゲットを絞って情報を提供するため、ロットが小さくなるので紙媒体ではなく、WEBなどのデジタル媒体に変わっていくのかもしれない

ん。そうした場合にも、XMLをデータベースで管理している『Orbit Magic』ならば、このようなデータの2次利用にも対応していけると期待しています。」と照屋氏は今後の方向性と『Orbit Magic』に対する期待を最後に語ってくれました。こうした期待にこたえるためにも、ますます『Orbit Magic』を拡充していかなければと思いを新たにしました。

Orbit Magicを使った作業風景



■システム概要図



FUJIFILM

●お問い合わせは下記まで

富士フイルム グローバル グラフィック システムズ 株式会社

〒106-0031 東京都港区西麻布2-26-30 富士フイルム西麻布ビル

TEL:03-6419-0300(インフォメーションダイヤル)

URL <http://ffgs.fujifilm.co.jp/>